

美学校
2026 年度 10 月期
募集要項



美学校

Bigakko Guide 2026



美学校基本構想

裾野に至って現代における美意識（倫理）への介入という想定に立ちつつ

現在の美学校を全構想かつ最高形態の追求として位置づける

教えるを受けることを、みずからの意志として据えて、欲するものを得ることはありえても、

教えることをみずから意図し、果たしうることではないのであって、

教える意思是、生徒の脳皮質をかすめて消えるのである。

総じて耳目を通し、すなわち空間を媒介として、達して頭脳にいたるコースにおいてそうなので、

脳皮質を駁撃して残るのはきわめて生理的な衝撃感ということだけであったり、

あるいは、金時絵に使う筆は舟ねずみの毛で作らなければいけない

といったことだけで終わるのである。

そこで、教えられる機関は考えるとしても、教える機関は考えるわけにはいかぬ。

そこで、最高の教育とは、教える意志をもたぬものから、

必要なものを盗ませるということになろうか。

美学校
1969 - 2026

第58期2026年度生徒募集にあたって

美学校は1969年に現代思潮社という出版社によって設立されました。設立された背景には、既存の学校教育に対するアンチテーゼがあったそうです。あったそうですと伝聞形で書くのは、開校から50年を経たことによる人的、時代的な断絶があるからです。そして、それに伴って美学校も別の運動体へと変化してきました。

わたしたちは美学校をいわゆる「学校」という静的なものではなく、有機的な運動体として捉えています。ここでは美術や音楽を中心とした様々な教程を開講していますが、そこは技術や知識を体験的に身につける場であると同時に、様々な出会いや実験が起こり、そして自由と自治が存在する場にしたいと思っています。自由と自治というと難しく聞こえるかもしれませんが、自分たちが美術や音楽を通して勝手気ままに楽しむための場所を作りたいということです。自分が楽しむということは、興味を持って楽しめる何かを発見するということです。そして、その興味が他者や社会へと繋がることによって、世界が広がっていくのだと思います。それはわたしたちが50年以上に渡って歩んできた道でもあります。

受講にあたっては、ただ絵を描きたい、音楽を学びたいといった理由で充分です。その気持ちが大切だと思います。経験や年齢は誰も気にしませんので、勇気を持って飛び込んでください。初めてここを訪れる人はきっと美学校を変わった場所だと思うことでしょう。それは校舎が築50年以上の古いテナントビルのワンフロアであったり、古本やチラシや何だかよくわからない物であまりにも雑然としていたり、フランクな講師やスタッフがいたりするからかもしれません。ですが、そんな光景も見慣れてしまえば、特別なものではなくなります。学校では、あれをしてはいけない、これをしてはいけないと言われてきたと思いますが、本当にしてはいけないことなんてそうないはずです。ここは自由です。

教程は5月から始まり翌年の3月で終わります。この一年は長いようで短いです。美学校での一年間をどう過すか。それはあなたの想像力と行動次第です。みなさんや講師はもちろん、関係する様々な人々、そしてわたしたち自身にとって、これからが面白くなるようわたしたちは尽力します。

2026 年度 10 月期教程（2026 年 10 月～2027 年 3 月）

11 教程の中から複数教程の受講も、1 教程のみの受講も可能です。
10 月期募集教程は、5 月より開講している通年教程への編入となります。

〈絵画〉

- ☐ 生涯ドローイングセミナー
- ☐ テクニック & ピクニック
- ☐ 造形基礎 I
- ☐ 細密画教場
- ☐ 超・日本画ゼミ
- ☐ 出張！パーブルーム予備校
- ☐ 絵画部
- ☐ ペインティング講座

〈版画／写真〉

- ☐ 石版画（リトグラフ）工房
- ☐ 銅版画工房
- ☐ シルクスクリーン工房
- ☐ 版表現実験工房（銅版画）
- ☐ 写真工房

〈現代美術〉

- ☐ アートのレシビ
- ☐ ビジュアル・コミュニケーション・ラボ
- ☐ 芸術漂流教室
- ☐ アンビカミング：シャドーフェミニズムズ
の芸術実践（対面、オンライン）※1
- ☐ 立体・空間制作ゼミ～時空を超えて
- ☐ 現代アートの勝手口
- ☐ サウンドアート・入門と実践
（対面／オンライン）
- ☐ 全日本 無意味塾（オンライン）
- ☐ 未来美術専門学校

〈様々な分野〉

- ☐ 劇のやめ方
- ☐ POP ILLUSTRATION 塾
- ☐ 実作講座「演劇 似て非なるもの」
- ☐ 特殊漫画家 - 前衛の道
- ☐ 意志を強くする時
- ☐ 建築大爆発
- ☐ アートに何ができるのか
- ☐ モード研究室

〈作曲／作詞〉

- ☐ 楽理基礎科（対面／オンライン）
- ☐ 楽理中等科（対面／オンライン）
- ☐ 作曲演習（オンライン）
- ☐ 歌う言葉、歌われる文字（対面／オンライン）

〈DTM〉

- ☐ 魁！打ち込み道場（オンライン）
- ☐ アレンジ & ミックス・クリニック（オンライン）
- ☐ DTM 基礎～ Ableton Live 編～（オンライン）
- ☐ サウンド・ポートレート・ラボ
（対面／オンライン）

〈研究室〉

- ☐ 美楽塾
- ☐ ライター講座（対面／オンライン）
- ☐ 世界のリズムとグルーヴ研究（対面／オンライン）

※1 対面とオンラインで回ごとに交互に開催します。対面のみ、もしくはオンラインのみの参加はできません。

2026 年度 10 月期 時間割

	13:00 ～ 17:00, 他	18:30 ～ 21:30, 19:00 ～ 22:00, 19:00 ～ 21:30, 他
月	・シルクスクリーン工房	・テクニク&ピクニック ・芸術漂流教室 ・ライター講座 ・世界のリズムとグルーヴ研究
火	・石版画（リトグラフ）工房 ・ビジュアル・コミュニケーション・ラボ ・立体・空間制作ゼミ	・アンビカミング：シャドーフェミニズムズの芸術実践 ・劇のやめ方 ・POP ILLUSTRATION 塾 ・特殊漫画家 - 前衛の道 ・アートに何ができるのか ・魁！打ち込み道場 ・DTM 基礎 ～ Ableton Live 編～
水	・絵画部	・細密画教場 ・版表現実験工房 ・楽理基礎科 ・楽理中等科 ・作曲演習
木	・銅版画工房 ・意志を強くする時 ・ペインティング講座	・生涯ドローイングセミナー ・全日本 無意味塾 ・アレンジ & ミックス・クリニック ・美楽塾 ・ペインティング講座
金	・写真工房 ・出張！パーブルーム予備校	・現代アートの勝手口 ・歌う言葉、歌われる文字 ・サウンド・ポートレート・ラボ
土	・アートのレシピ ・造形基礎Ⅰ ・建築大爆発	・超・日本画ゼミ ・モード研究室
日	・超・日本画ゼミ ・実作講座「演劇 似て非なるもの」 ・サウンドアート・入門と実践	

入 学 案 内

2026 年度 10 月期教程の受講を希望される方は、入学規定をお読みになってから以下の手順で入学手続きを行ってください。（オープン講座は、入学手続きは不要です。WEB サイトの講座ページより直接お申込みください。）

入学手続きの手順

1、申込み

当校 WEB サイトの受講申込みフォームに必要事項を入力して送信してください。
担当者から学費のお支払いについてのご案内をお送りします。

受講申込みフォーム
QR コード



※書類での申込み

書類での申込みも可能です。希望される方には申込書（入校志望書）を郵送いたしますので、事務局にお問い合わせください。
申込書（入校志望書）は郵送または持参にて提出してください。

2、学費・教程維持費の納入

担当者からのご案内の送付後一週間以内に学費・教程維持費を納入してください。学費・教程維持費の納入をもって入学手続き完了となります。複数教程の受講などで納入額が不明な場合は事務局にお尋ねください。

3、手続き完了後から受講までの流れ

初回授業日は 10 月初旬～下旬となります。手続き完了後にメールにて授業日と持ち物のご連絡を差し上げます。
郵便での連絡を希望する方は、お申込み時にお伝えください。

入学手続き締切り

2026 年度 10 月期 一次締切り 2026 年 9 月 28 日（月）

※一次締切りの時点で定員に達していない教程は、追加募集をする場合があります。
※学期が始まってから受講を希望する場合は、事務局にお問い合わせください。教程によっては受け入れ可能な場合がございます。その場合、時期、学費などで相談に応じます。

入校志望書の提出先・学費の納付先

《提出先・納付先》

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第 2 富士ビル 3F 美学校 本校 事務局

《振込み口座》

三菱 UFJ 銀行 神保町支店（普通）2330142 有限会社美学校 [コ] ビガツコウ]

入 学 規 定

資格

各教程のカリキュラムに指示するもの以外、学歴・年齢・性別その他の制限はありません。

期間

授業は 10 月から翌年 3 月までの定められた日程に行われますが、その間原則として、12 月 26 日から 1 月 4 日まで休みとなります。

入学手続き

入校志望書の提出、あるいは受講申込みフォームからの申込みと学費・教程維持費の納入をもって入学手続きとします。申込みは先着順で受け付け、各教程の定員に達し次第募集を締め切ります。入学手続きをもって本規定に同意したものとします。

定員

各教程の定員はカリキュラムに明示します。ただし、申込者数が最小開講人数に達しない時は開講しない場合があります。

学費および教程維持費

・構成

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費の他に教程維持費がかかります。

・納入方法

学費・教程維持費は、現金、銀行振込、クレジットカード（VISA、MASTER）のいずれかにて、全額を一括でお支払いください。

・割引

過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

・返金

一旦納入された学費および教程維持費は以下の場合を除きご返金はいたしません。

- ・定員超過によって受講ができなかった場合
- ・申込み教程が最小開講人数に達せず開講しなかった場合
- ・講師の急病等の理由により開講が困難となった場合

※病気や転勤などのやむを得ない事情により受講をやめる場合は、医師による診断書や勤務先の辞令等の提示があれば、残り授業回数の 80% の学費をご返金いたします。

※オープン講座は異なります。当校 WEB サイトの「特定商取引法に基づく表記」ページをご参照ください。

・分納

分納を希望する方は、事前に事務局にご相談ください。分納は原則的にクレジットカードによるお支払いのみとなります。クレジットカードのお支払いは一括のみの対応です。ご自身でお支払い方法を分割もしくはリボ払いに設定していただくことにより、分割払いが可能となります。学生の方でクレジットカードの限度額が足りない方は、別途ご相談ください。

在籍証明

教程の 3 分の 1 以上を欠席した生徒は、本校に在籍したことを認めない場合があります。

注意事項

申込み内容に虚偽があった場合は入学資格を取り消すことがあります。自己の入学資格および在籍資格を他人に譲ることはいかなる場合も認めません。本校に不利益をおよぼしたり、みだりに授業を妨害するなどの行為をした受講生や、講師の指示に従わない受講生は、本校の指示により除籍される場合があります。

学費

2026 年度 10 月期（2026 年 10 月～ 2027 年 3 月）

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費総計の他に教程維持費がかかります。教程維持費（税込）は各教程のページに記載してあります。過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

● 1 教程を受講する場合は次の学費となります。

教程名		授業料	設備費	学費総計（内、消費税）
A 教程	生涯ドローイングセミナー	180,900	5,000	185,900（16,900）
	テクニク & ピクニック	180,900	5,000	185,900（16,900）
	石版画（リトグラフ）工房	181,400	10,000	191,400（17,400）
	銅版画工房	181,400	10,000	191,400（17,400）
	アートのレシピ	180,900	5,000	185,900（16,900）
	ビジュアル・コミュニケーション・ラボ	180,900	5,000	185,900（16,900）
	芸術漂流教室	180,900	5,000	185,900（16,900）
	立体・空間制作ゼミ	180,900	5,000	185,900（16,900）
	造形基礎Ⅰ	募集なし	募集なし	募集なし
	細密画教場	募集なし	募集なし	募集なし
	超・日本画ゼミ	募集なし	募集なし	募集なし
	シルクスクリーン工房	募集なし	募集なし	募集なし
	版表現実験工房（銅版画）	募集なし	募集なし	募集なし
	写真工房	募集なし	募集なし	募集なし
	現代アートの勝手口	募集なし	募集なし	募集なし
	モード研究室	募集なし	募集なし	募集なし
	ペインティング講座	募集なし	募集なし	募集なし
	未来美術専門学校	募集なし	募集なし	募集なし
B 教程	アンビカミング：シャドーフェミニズムズの芸術実践	90,700	5,000	95,700（8,700）
	劇のやめ方	90,700	5,000	95,700（8,700）
	POP ILLUSTRATION 塾	90,700	5,000	95,700（8,700）
	楽理基礎科	募集なし	募集なし	募集なし
	楽理中等科	募集なし	募集なし	募集なし
	作曲演習	募集なし	募集なし	募集なし
	魁！打ち込み道場	募集なし	募集なし	募集なし
	アレンジ & ミックス・クリニック	募集なし	募集なし	募集なし
	サウンド・ポートレート・ラボ	募集なし	募集なし	募集なし
	出張！パープルーム予備校	募集なし	募集なし	募集なし
	絵画部	募集なし	募集なし	募集なし
	全日本 無意味塾	募集なし	募集なし	募集なし
	特殊漫画家 - 前衛の道	募集なし	募集なし	募集なし
	建築大爆発	募集なし	募集なし	募集なし
	アートに何ができるのか	募集なし	募集なし	募集なし
	美楽塾	募集なし	募集なし	募集なし
	ライター講座	募集なし	募集なし	募集なし
	世界のリズムとグルーヴ研究	募集なし	募集なし	募集なし

C 教 程	歌う言葉、歌われる文字	募集なし	募集なし	募集なし
	実作講座「演劇 似て非なるもの」	募集なし	募集なし	募集なし
	意志を強くする時	募集なし	募集なし	募集なし
	サウンド・ポートレート・ラボ（聴講）	募集なし	募集なし	募集なし
	サウンドアート・入門と実践	募集なし	募集なし	募集なし
	DTM 基礎 ～ Ableton Live 編～	募集なし	募集なし	募集なし

- 2 教程を受講する場合は以下の学費となります。
- 3 教程以上の受講を希望する場合は事務局までお問い合わせください。

教程分類	授業料	設備費	学費総計（内、消費税）
A 教程＋ A 教程	292,500	10,000	302,500（27,500）
A 教程＋ B 教程	223,200	10,000	233,200（21,200）
B 教程＋ B 教程	155,000	10,000	165,000（15,000）

※教程維持費は各教程ごとにかかります。教程維持費は各教程のページに記載してあります。
※教程維持費の割引はありません。

- 過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、下記の通り学費の割引が適用されます。

教程分類	学費総計 → 割引後学費総計（内、消費税）
A 教程	185,900 → 156,200（14,200）
	191,400 → 161,700（14,700）
B 教程	95,700 → 85,800（7,800）
A 教程＋ A 教程	302,500 → 260,700（23,700）
A 教程＋ B 教程	233,200 → 202,400（18,400）
B 教程＋ B 教程	165,000 → 140,300（13,000）

※教程維持費は各教程ごとにかかります。教程維持費は各教程のページに記載してあります。
※教程維持費の割引はありません。

オンライン教程の使用ツールとガイドライン

オンライン教程の使用ツールについて

全てのオンライン教程に共通して授業では主に以下の2つのツールを使用します。

ZOOM —— 授業プラットフォームです。アプリ版の使用を推奨しますが、ブラウザからの参加も可能です。

Discord —— 授業補助として利用するチャットツールです。各教程ごとにクローズドのグループを作成し、そちらで毎回の授業リンクをご案内します。そのほか課題提出、コミュニケーション等のプラットフォームとして使用します。

オンライン教程についてのガイドライン

当校ではオンライン教程の開講にあたって、受講生のプライバシーや個人情報の保護に配慮し、以下のガイドラインを定めています。受講に際しては、下記をご了承のうえお申し込みください。

1) プライバシーと個人情報に関して

- ・授業中の顔出しは任意です。プライバシーが気になる方はカメラをオフにしてご参加ください。
- ・学習目的以外での ZOOM 画面や Discord、講師による共有画面のスクリーンショットはお控えください。
- ・学習目的で講師画面や板書をスクリーンショットする際は、他の受講生が写り込まないようご配慮ください。
- ・スクリーンショット画像の第三者への譲渡や開示、SNS への投稿などは固く禁じます。
- ・Discord 上で行われたやり取りに関して、特に個人情報を含むものは第三者への開示、SNS への投稿などはご遠慮ください。ただし、個人的な感想や意見等についてはその限りではありません。
- ・授業画面のスクリーンショットなどを広報に利用させて頂く場合があります。その際は原則として受講生の画像・画面にはモザイク・ぼかし処理を行い、個人が特定されない形で使用いたします。
- ・Discord 上でのダイレクトメッセージなど受講生同士による個々のやり取りは良識の範囲内で行ってください。他受講生への迷惑行為が確認された場合は即座に Discord の利用を停止いたします。
- ・必要に応じて受講生に授業内容のアーカイブ動画を提供します。アーカイブ動画の第三者への譲渡や開示、SNS や動画サイト等への投稿を行うことはありません。また、同行為を固く禁じます。なお、アーカイブ動画提供の有無については教程ごとに異なります。詳しくは個別の教程ページをご確認ください。

2) 課題作品や配布物について

- ・課題作品は Discord 上の指定されたチャンネルに提出いただき、受講生全員で共有されます。
- ・授業で用いる教材も同様に Discord 上に配布します。
- ・提出された受講生作品や配布物の第三者への開示、SNS への投稿等は固く禁じます。
- ・提出された受講生作品の権利は作者に帰属します。提出された他受講生の作品を参照したり、リミックス等で二次的に使用する際は、お互いに承諾を取り、作品へ敬意を持ってお取り扱いください。

3) セキュリティについて

- ・ZOOM の授業リンクは都度生成し、パスワード保護されます。参加にはスタッフの認証を設けていますので、第三者が無断で入室することはありません。ただし、複数の事務局スタッフが立会いのため予告なく参加する場合があります。
- ・セキュリティ向上のため、ZOOM は最新版をインストールするようにしてください。
- ・Discord グループは受講生と講師、スタッフのみ参加を許可されます。第三者が無断で参加することはありません。
- ・主に Windows 環境において Discord にマルウェア感染被害が報告されています。対策としてアプリケーションの再インストール、或いはアプリをインストールせず、web ブラウザから仮アカウントを用いて使用頂くことで対応が可能です。事前に対策をご確認の上、ご了承の上受講いただけますようお願いいたします。

4) オンライン授業の見学について

- ・本校では受講を検討されている方の授業見学を随時行っており、オンライン授業も同様に見学が可能です。そのため、受講中の授業に見学者が参加する可能性があります。見学者にも受講生と同様に講座を体験していただくため、授業内で配布した資料や受講生の提出作品などは同様に見学者にも閲覧や視聴が許可され、必要に応じてデータが譲渡されます。
- ・見学者による授業内で配布された教材や作品の第三者への開示、SNS への投稿等は固く禁じます。場合によってはデータの破棄にご協力ください。

説明会／見学・受講相談

説明会

下記の日程で募集教程の説明会を開催します。受講方法や各講座についての説明に加えて校舎案内を行います。説明会後には個別の入学相談も可能です。各回 90 分程度／定員 8 名。会場は本校です。

参加をご希望の方は QR コードからか、メールか電話にてお申し込みください。

※複数の学科に渡って興味がある方は、説明会よりも個別の受講相談がおすすめです。

説明会 申込み QR コード



説明会日程

- ・ 9 月 8 日（火） 19:00 ～
- ・ 9 月 12 日（土） 15:00 ～

見学・受講相談

授業見学および受講相談は随時受け付けております。

学校の雰囲気、講座の内容から、どの講座が合っているかなどの個人的なご相談まで、受講をご検討中の方もそうでない方も、お気軽にお越しください。

ご希望の方は QR コードからお申し込みになるか、メールか電話にて希望日をお問い合わせください。

受講相談はオンライン（ZOOM・Google Meet）でも可能です。

見学・受講相談 申込み QR コード



生涯ドローイングセミナー

丸亀ひろや（+O J U N +宮嶋葉一）

定員：10名
授業日：毎週木曜日 18:30～21:30
教程維持費：6,600円（通額）
開催教室：本校

紙に鉛筆などのモノクロの画材で線を引き、物や人物、情景や物語を描き出すこと。これらは“デッサン、素描”と呼ばれています。それに対してこのセミナーは“ドローイング”と称して、より多様な表現を指向しています。

Drawing と書いてドローイング、“線を引く。図面”などを意味します。紙などに鉛筆やペン、水彩などで描かれた表現形式を言います。あえて英語の表記を使ったのは20世紀後半からの新しい流れ、具象的な再現に留まらない表現への含みをもたせるためです。

“なにをどう描くか”が最初のテーマであり、長い道のりの指針でもあります。

好きなものや惹かれることを観察して描いてもよいし、見えない何かを描き出してもよい。風景を描いても、人物の姿に迫ってもよい。取りあえずそこにある画材をつかんで手を動かしてみる。色を擦りつけた紙がどんなものかやってみる。自らの“描く”を問うてもよいし世界の不思議を追って迷い込んでもよい。しかし、最初のテーマ“なにをどう描くか”に、あなたは答えを出すために多くの時間を費やしてしまうでしょう。自身がひねり出した答えは、あなたを思ってもみない方へ連れ出してしまうかもしれないし、ひょっとしたら一生果てしなく続くものになるかもしれない。

“なにをどう描くか”は、心と体がそうであるように頭で考えるだけではだめで、なかなか自由にはなりません。しかも、あなたと世の中も常に変化し続けていますよね。なので、敢えてそれは答えのない“長い道のりの指針”でしかないと付け加えておきたい。

今ここでの身体の感触とそこに現れた線、かすれ、しみ。描き出されたもの。その紙の表面とあなたの身体全体は、その出来事の『場』なのです。身体全体でみる、自らが起こした出来事を自らが体験する。こんなことに戸惑い、困惑するかもしれません。下手をすると成果が無く数か月が過ぎることもありますが、あせらず一緒に描く題材、視線、方法を探っていきましょう。停滞と混濁の時さえ興味深く味わうような場となればと願っています。

参加される方の目的もさまざまで、手軽にできる、いろいろ試せるなどの期待もあるでしょう。未経験の方から経験者まで幅広いキャリアの方々が講座へ参加されるのを期待しています。

週に一回ドローイングの実習を行います。そのために各自持参するものは、紙と、油彩以外の画材や筆記具（水彩、墨、鉛筆、クレパスなど）です。尚、画材については随時その使用法や種類の説明をします。また、一年間の実技演習において“描くこと”と“描かれたもの”の意味をたえず自らに問いながら描きためたドローイングで“マップ”（ドイツ語のファイルの意。当ゼミではドローイングブックを意味する）を制作し、卒業制作展を行います。

丸亀ひろや

講師体制について

丸亀さんがメイン講師として毎週の講座を担当します。OJUNさんは年に2～3回ほど各学期末に参加予定です。宮嶋さんは長期療養中のため参加は未定です。

丸亀ひろや

1961年熊本県生まれ。1986年東京造形大学造形学部美術学科卒業。66-90年ドイツ・デュッセルドルフ美術アカデミー絵画専攻。91-94年ドイツ・デュッセルドルフ大学美術史専攻。おもに平面作品を制作。目の前の対象や印刷物の図像から抽象的な事柄まで様々なテーマを雑食的にドローイング、そこを足掛かりにした絵画作品は抑制が効いているがどこか即興の愉楽がある。

OJUN

1956年東京都生まれ。1982年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士修了。1984-85年スペイン・バルセロナ滞在。1990-94年ドイツ・デュッセルドルフ滞在。絵画・ドローイング・版画と、さまざまな媒体の平面作品を制作し、身の回りの日常的な対象を自身の視点で新鮮に捉え、その絶妙な線や色、空間は、見る者に新たな視点を与える。

宮嶋葉一

画家。1954年大阪府生まれ。1982年東京藝術大学大学院美術研究科油画修士課程修了。1988-98年ドイツ・デュッセルドルフ滞在。具体的な対象をモチーフに簡略化された線と強いストローク、対象に意味を持たせないスタイルが特徴。簡素化された構造と内包するユーモアのセンスが楽しめる作品を一貫して制作。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

テクニク & ピクニク

～視覚表現における 創作と着想のトレーニング～

伊藤桂司

本講座では、グラフィック、デザイン、イラストレーション、美術などの創作における技術の獲得（テクニク）と楽しさの探求（ピクニク）を目的としています。

この講座では、緊張やストレスから遠く離れ、“創る喜び” “壊す快感” “身体感覚” “『偶然』の重要性” と言ったキーワードを中心軸に据え、シンプルながら多様なアプローチを試みます。

人間はリラックスした状態が一番能力を発揮できるとシュタイナーも言っていますが、受講生の方には、この講座を通して自らの内に潜む才能の“原石”を発見してもらえればと思っています。

授業内容の一例
・ テンプレートと定規のみを使って描く風景・人物
・ コラージュ
・ パースペクティブによる空間認識
・ 模写
・ ZINE の制作
・ インプロヴィゼーション（2～3人のチームで即興的に大きめの支持体に絵を描く）
・ 画材の実験（同じモチーフを異なる画材で描き、画材の特性を再認識・再発見）
・ ブラインドドローイング（目を隠して音楽を聴きながら、音から連想されるイメージを描く）
・ 3ミニッツドローイング（その場で聞いた言語のイメージを3分間で描く）
・ 古本、中古レコードのカスタマイズ（神保町で入手した古本、中古レコードにコラージュしたり、落書きしたり、ペイントを施したり、自由な発想でカスタマイズし、世界に一つだけのアートピースを創る）
・ インプットとアウトプット（影響を受けた作家を再研究し、その方法論を援用した作品制作を試みる）

など他多々

定員：10名
授業日：毎週月曜日 19:00～22:00
教程維持費：6,600円（通額）
開催教室：本校

伊藤桂司
1958年東京生まれ。’80年に雑誌“JAM” “HEAVEN”でのデビュー以来、グラフィックワーク、アートディレクションを中心に活動。2001年東京ADC賞受賞。テイ・トウワ、スチャダラパー、キリンジ、バッファロー・ドーター、高野寛、ohana、オレンジペコー、愛知万博EXPO2005世界公式ポスター、イギリスのクラヴェンデール、SoftBankキャンペーン他多数のヴィジュアルを手掛ける。
「四次元を探しに / ダリから現代へ」（諸橋近代美術館）など他数々の国内外展示に参加。個展多数。作品集に『LA SUPER GRANDE』（ERECT LAB.）、『DAYS OF PAST FUTURE』（Alex Besikian との共著）他多数。京都芸術大学大学院教授。UFG代表。<http://site-ufg.com/>



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

石版画（リトグラフ）工房

佐々木良枝＋増山吉明

定員：10名
授業日：毎週火曜日 13:00～17:00
教程維持費：12,100円（通額）
開催教室：本校

石版画（リトグラフ）は、平版の版画です。平らな版材の上に油成分を含む画材（墨、クレヨン、鉛筆等）で描いたものを直接版にして刷ります。クレヨンや鉛筆で描いたドローイングの自由な線や風合いを出すことができ、また、筆やペンで描いた水彩画のタッチやにじみ、複雑な色合いを出すこともできます。版画の技法の中でもっとも絵画に近いといえます。

石版画（リトグラフ）は水と油が反発する原理を応用し、描いた絵を化学変化させて版にし、描画部分にのみインクを付着させ、プレス機で刷ることで絵を創ります。化学変化をさせて作る版である為、描かれた画面が自分の意に反して、抑揚の無い平板な調子の乏しいものになったり、絵が壊れたりすることもあり、「描き」「版作り」「刷り」の技術や知識を習得する必要があります。

当工房では、石の版を使って技法を学びます（特殊な石であることや作業に水場などが必要なため、石を使つての作画が出来る工房はあまりありません）。石の版、また、金属版（アルミ版）、を使った技法やP S版による写真製版技法も学びます。それぞれできあがる版の具合が違うので、特質を知り、活用できるとより幅広い表現方法を持つことができます。

石版画（リトグラフ）は、さまざまな"描く"で自分の絵画表現を探究することが可能です。描くでも版を媒介とするので、思いがけないものにも出会ったりする喜びがあります。自分のイメージに接近していくには、手を動かし絵を描き、絵を創りあげていくことです。そうすることで、自分の方法を見つけていけるのではないのでしょうか。

佐々木良枝

授業内容

【前期】
●石版による制作（石の研摩・描画・製版・刷り）クレヨン画、ペン画、解き墨画
●P S版（写真製版）による制作（描画・感光製版・刷り）コラージュ、フロッタージュ、ドロッピング等

【中期】
●石版石による制作
●P S版多色刷りによる制作
●表現について考え、自分の表現方法の模索・構築
●アルミ版による制作

【後期】
●自由制作
●制作発表の方法論学習（作品の見せ方、空間づくり等）

【生徒持ち道具・材料】
描画材料 クレヨン・解き墨・筆・インク・アルミ版・P S版その他
版画用紙 あて紙・試し刷り用紙・本刷り用紙

表現のために／自分を貯める一構築する
●探し取材する・切り取る・決める・盗み取る等の作業
「かわいい」「きれい」「カッコいい」「おもしろい」自分が心惹かれるもの、おもしろいもの…自らを動かさうる動機（モチーフ）
●よく観察する・考察する・認識する
何故それがいいか、どんな方法だから、こんな風に見えるのか、自分の嗜好、好むものをより認識する
●言葉にする
観察して、考察して認識したものを言葉にする。思考し、曖昧とした考えを明確化する、潜在意識が引き出される
記憶は薄れる、言葉にしたものは残る
人に自分の言葉を示し、人とディスカッションすることで、より明確化し、付け加えられる
●貯めていく
貯めたものを増やしていく、連想を広げ、よりイメージ化する、たまった情報を編集する。どんな表現方法で何を表現するか思考する／一つの表現方法として、この工房では、リトグラフを制作する。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを掲載しています

銅版画工房

上原修一

定員：10名

授業日：毎週木曜日 13:00～17:00

教程維持費：12,100円（通額）

開催教室：本校

銅版画という方法を使った「絵」を制作します。

銅版画の特徴として、ひとつは凹版画であることがあげられます。

もうひとつは、ほかの版種と同様に「版」を用いた間接表現であることです。約1ミリの厚さを持った銅の板の表面に、何らかの技法で点や線を刻みつけます。

制作者のイメージや意図に基づいて点や線が刻みつけられた瞬間に、銅の板は「版」に変わる。その、点や線（凹部）に銅版画用インクを詰め、紙に絵柄を刷り取ります。

大切なのは、いかに美しい版を作るかではなく、その版を通して刷り上げられたもの（つまりは作品ですが）が「表現」になっているかどうかということです。

直接描いたのでは決して得られない点や線、あるいはマチエールを生み出す力を銅版画は持っています。

あくまでも基本的な銅版画の技法に拘りながら、さらにその可能性について考えていきます。

授業の前半期では、ドライポイント、エッチング、アクワチントといった銅版画の基本技法と、インクの詰め、拭き、修正、プレス機の取り扱いなど、刷りの基本技術とを学びます。なるべく早い時期に、工房での自習が出来るスタンスを確立します。

後半期は、ディープ・エッチング、ソフトグラウンド、写真製版、コラグラフなどの版作りの応用技法と、多色刷り、雁皮刷りなど様々な刷り方について学びます。多様な銅版画のテクニックを、体験則としてひと通り知って貰うためのプログラムを展開します。

ときどき合評会もやります。けれど、課題のようなものを求めることは一切しません。

作りたい人の作りたい気持ちを最優先に実現できる、本当の意味での自由な工房を目指しています。

受講生同士はもちろん、受講生と講師も、忌憚なくお互いを評価、批評し合える関係でありたいと思います。

確信的なものでも、あるいは全く漠然としたものでも構いませんが、銅版画に対する憧れを持った人の受講を望みます。ここは一度嵌まったらとにかくなかなか深い場所です。

上原修一



クラウン

エッチング、アクワチント、ドライポイント、コラグラフ
558mm × 450mm
ed.12, a.p.3 2版2色刷り サマセット紙



テーブルの下の私の荷物

エッチング、アクワチント、ディープ・エッチング、ソフトグラウンド、コラグラフ
725mm × 593mm
ed.2, a.p.なし 17版2色刷り 雁皮漣き合わせ紙



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アートのレシピ

～写真と映像から生まれる表現

松蔭浩之＋三田村光土里

定員：12名
授業日：毎週土曜日 13:00～17:00
教程維持費：6,600円（通額）
開催教室：本校

本講座では、長年にわたり好評を博してきた現代美術講座「アートのレシピ」のエッセンスを凝縮し、現代美術の表現として最も有用な手段である「写真」と「映像」を活かした作品制作と、さらにその展示方法について実践的に学んでいきます。

スマートフォンによって、写真と映像はより身近な表現方法となりました。専門的な技術を学んだり、高価な機材を購入しなくても、私たちは自由に手軽に表現したいものをつくって見せられる世界に生きています。誰もが表現者になれる現代だからこそ、どのように身近な写真や映像から優れたアート作品を生み出せるのか、その可能性を共に考え、試行錯誤し、制作に取り組んでみましょう。

講師は、写真・映像・映画・立体・インスタレーションなど様々な作品を発表してきたアーティストの松蔭浩之。松蔭はアーティスト活動と並行してコマーシャルフォトグラファーとして数多くの著名人のポートレイトを撮影してきました。その写真表現の根幹には19歳から3年間師事した森村泰昌氏をはじめ、先人たちから培って確立した独自の「写真論」が存在します。

講座では、カメラや写真・映像の基礎的なレクチャーとワークショップから始まり、現代美術における写真・映像表現の歴史や文脈、そして作品制作に必要な問題意識やコンセプトについて学んでいきます。さらには松蔭の写真論を軸に、オブジェ論、怪物論、DIY論などの、多角的なアプローチから写真や映像の制作プロセスに導くための演習や、音楽・映画についての松蔭の豊富な知識をレクチャーしながら、最終的にセルフポートレイトによる写真作品や映像作品を制作します。

また、サブ講師の三田村光土里は、写真・映像・言葉・日用品などを用いたインスタレーションで「人が足を踏み入れられるドラマ」を空間ごとつくり上げ、世界各地で発表してきました。その豊富な経験を元に、作品創作に不可欠なテーマ・コンセプトの着想方法や、実践的な展示の方法、アーティスト・ステイトメントを書き起こす方法を学びます。

これまで作品を作ったことがないという未経験者の方も、すでにアーティストとしてキャリアのある方も、年齢を問わず歓迎します。ぜひご参加ください。

松蔭浩之（まつかげひろゆき）

現代美術家、写真家。福岡県出身。1988年大阪芸術大学写真学科卒業。

1990年アートユニット「コンプレッソ・プラスティコ」でベネチア・ビエンナーレに世界最年少で選出される。以後、数多くの国内外個展やグループショー、シンガポール・ビエンナーレ（2006年）ほか国際芸術祭に参加。写真作品を中心にインスタレーション、パフォーマンス、ミュージシャン、執筆、グラフィックデザイン、俳優、映画監督など多岐に渡って活動が続ける。アートグループ「昭和40年会」（1994年結成。現メンバーは会田誠、有馬純寿、小沢剛、大岩オスカル、バルコキノシタ、松蔭浩之の6人）では会長を務める。

宇治野宗輝とのロックデュオ「ゴージャラス」（1997年結成）では国内外でのライブを盛んに行った。また、2016年再始動したポストインダストリアルグループ「PBC」（1987年結成）でも演奏活動が続ける。俳優としては金子雅和監督『アルピノの木』など数々の作品に出演。監督作品は、画家の会田誠を主演に起用した『砂山』（2012）、若林美保主演の『LION』（2018）がある。
<https://www.matsukage.net>

三田村光土里（みたむらみどり）

愛知県生まれ 東京在住

「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに、写真や映像、言葉や日用品などの多様なメディアで構成した空間作品を国内外で発表。私的な追憶から浮かび上がる日常の哀愁や感傷を観る人の内側に投影する。

世界各地で人々と朝食を共にする滞在制作「Art & Breakfast」では、フィールドワークで集めた材料でインスタレーションを作り続け、文化的境界を越えて共感できる価値観をユーモアと批評的な眼差しで描く。

2003年、日本の新進作家展・vol.2（東京都写真美術館）。2005年、文化庁新進芸術家海外派遣（フィンランド三都市巡回個展）。2006年、ウィーン分離派館・セセッションにて個展。あいちトリエンナーレ2016。恵比寿映像祭2022。瀬戸内国際芸術祭2022。他多数。

<https://www.midorimitamura.com/>



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

ビジュアル・コミュニケーション・ラボ

～ゼロから始める現代アート制作～

齋藤美奈子

定員：10名
授業日：毎週火曜日 13:00 ～ 17:00
教程維持費：6,600 円（通額）
開催教室：本校

この講座は、作品制作を中心に、現代美術に関する講義をはさみながら進めていきます。最終的に、それぞれがテーマを見つけ、美術作家として創作していくために必要な力を身につけることを目的としています。

みなさんの興味や関心、あるいは、心のなかにある大切な何かを拾い上げて、どんなふうでも構いません、それを目に見える形にしてみる。まず、そこからスタートしましょう。そして、それを、より明確なものにしていく作業を繰り返して行きます。"作品"と呼ばれるものは、そうして出来上がったもののことをいうのだと思います。

具体的な表現手法は、インスタレーション、立体、絵画、写真、ビデオなどといった、さまざまなものを試みながら、自分に最適なものを見つけてください。可能性の芽を膨らませ、独自の表現を可能にするため、制作の方向性や進度は個別に対応することを基本とします。みなさんに伴走しながら、その道案内ができれば、と考えています。

一年を通じて前半は、緩やかなカリキュラムに沿ったもの。後半は、各自のテーマで制作していきます。最後には、展覧会を開催し、その成果を発表します。みんなで展覧会を見に行ったり、また、個展やグループ展の開催、レジデンスへの参加などといった校外での活動も応援します。

興味はあったけれど、作品なんて今まで作ったことがなかったという人から、すでに作品を発表している人まで、美術というものに少しでも興味があれば、どなたでも大歓迎です。

齋藤美奈子

授 業 内 容
■ 作品制作
1：受講生からヒアリング ……作りたい作品の傾向などを確認していく
2：講師と受講生で話し合い課題を煮詰める
3：課題による作品制作 例・風を描く、表現する ・目で見ず触って物を描いてみる ・身近な素材を使った表現 ・写真を使った表現
4：各自の課題で作品制作
5：修了展開催
■ ミニ講義
1：リカちゃんハウスとドールハウス ……国や地域による空間認識の違い
2：書道は芸術か？ ……アートの定義とは何か
3：写真 ……その出現でアートはどう変わったか
4：現代美術の流れ ……1950年代以降の変遷と作品紹介



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

芸術漂流教室

倉重迅＋岡田裕子＋渡辺志桜里

「芸術漂流教室」は、倉重迅、岡田裕子に加え、今年度より渡辺志桜里を迎え、講師3名体制で展開していきます。3人の講師によるこの教室は、一粒で3度おいしい、3倍以上の楽しみ方がある講座です。各講師の講義・演習のほか、ギャラリースペースでのグループ展や、2泊程度の夏期合宿なども行う予定です。現代美術の領域で活動しながら他ジャンルにも軸足を持つ、経験値の高い講師陣とともに「楽しく」「真面目に」漂流しましょう。

講師＝倉重迅

アートを通じて人生のクオリティを高めたいと思っています。アートは決して美大卒やフルタイムアーティストだけのものではありません。思考する、議論する、制作する、発表するなど様々なプロセスを通して自分自身の表現力や理解力などブラッシュアップし、各々の人生にフィードバックすることができたらと思います。映像関連作品はもとより、インスタレーションや立体、絵画などジャンルを問わず扱っていきます。どのようなジャンルでも思考プロセスや言語はほとんど変わらないので極力色々なところに手を伸ばしていきたいと考えています。授業内容の一例としては各受講生たちが持ちよる作品、コンセプト、アイデアなどをベースにディスカッション、ディベートをラウンドテーブルで3時間ガチンコで行っていくものなどがあります。日本ではあまり馴染みのないスタイルですが、弱点や強みが浮き上がり、また特定個人の思想や嗜好に引っ張られたりしにくいので、ことアートに関しては非常に効果的です。一年間を通してお互い成長していけたらと思います。

講師＝岡田裕子

岡田自身、表現形態が多岐に渡り、分野横断的な試みを行いながら芸術活動を続けてきました。ですので、受講生ひとりひとりの興味関心や適性を探り、絵画、立体、インスタレーション、パフォーマンス、メディアアートやそれ以外など、多様な可能性を提案しながら、実践的な制作のアドバイスができると思います。ワークショップ形式の授業や観賞授業なども行います。受講生ひとりひとりが、これからどう生きてゆこう、これからどう変化しよう、などを抱えています。そういった想いに対して、美学校の少人数制という利点を活かし、それぞれに丁寧に対話してゆきたいです。ここでは「こうあるべき」というような指導はないと思っていて、それは掴みどころなく感じるかもしれませんが、ここから良い変化を遂げた受講生がたくさんいるなという実感があります。あと、なぜだか、卒業しても年度跨いで仲の良いコミュニティが生まれてますね。漂流船から上陸した仲間のような感じかもしれません。

講師＝渡辺志桜里

作品、と言うとある完成された作品を想像するかもしれませんが。しかしながら作品と言うものは地続きの活動の中でひょこっと顔を出す、プロセスの中のある点でしかないのかもしれないとも思うのです。この授業で目指すのは、システムを踏み外してみることで、器官なき身体を獲得することです。私たちを縛る社会の規範やルールを、「にんげん」以外のスケール」という複眼的な視座で捉え直す。たとえば足元の名もない草木の営みや、遙か彼方の地質学的な時間を想像するとそこには、人間中心の狭い理屈や倫理では測りきれない、ダイナミズムが横たわっていることに気づきます。そうした制作の過程で、戦争や震災、あらゆる不合理の隙間をすり抜けて生きる術を見つけられたらいいなと思います。

定員：9名
授業日：毎週月曜日 19:00～22:00
教程維持費：6,600円（通額）
開催教室：本校

倉重迅

1975年神奈川県生まれ。フランス国立高等芸術大学マルセイユ（ボ・ザール）DNSEP課程修了。トリノ・トリエンナーレ、シドニー・ビエンナーレ、「笑い展」（森美術館）など、国内外の展覧会に参加。また複数のa.k.a.にて、CMやPV、TV番組などのディレクションなどにも携わっている。面白そうなことに積極的に関わっていった結果、運営や経営、関連する企業、NPOなどは多岐にわたる。近年は飲食店や食品輸入などにも鋭意参画中。

岡田裕子

未来予想的でかつ独創性の高い作品をチャレンジな手法で展開する。国内外の美術館展、アートイベント、レジデンス事業に多数参加。主な作品に、再生医療をテーマとした《エンゲージド・ボディ》、男性の妊娠を描いた《俺の産んだ子》、自分の葬送を仮想体験するXR作品《Celebrate for ME》など。個人活動のほかには他者と協働するアートプロジェクトも立ち上げる。＜オルタナティブ人形劇団「劇団☆死期」＞主宰。家族（会田誠、寅次郎、岡田）のアートユニット＜会田家＞、Art×Fashion×Medicalの試み＜W HIROKO PROJECT＞。1970年生まれ。

渡辺志桜里

1984年東京都生まれ。2015年に東京藝術大学美術学部彫刻科を卒業後、17年に同大学大学院を修了。代表作として知られるインスタレーション作品《サンルーム》は、渡辺にとって身近な遊び場であった皇居から採取された植物、魚、バクテリアを生育する水槽を繋ぎ合わせ、その水を循環させることで、人工的な生態系を作り出している。作品制作の背景には、生物全体の種の絶滅・保護・排除の関係性、生態系の視点から見た国家という共同体、民俗的慣習や祭事に潜在する自然と人間との営みに対する独自の観察がある。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アンビカミング： シャドーフェミニズムズの芸術実践

遠藤麻衣＋ゲスト

この講座は、オープン講座として始めた「シャドーフェミニズムズの芸術実践」を通年講座として展開したものです。

私は、これまでフェミニズムに関心を持って芸術的な実践をおこなってきました。なかでも、西洋中心主義的なネオリベラリズムがとりこぼしてきた領域にあるフェミニズムに関心を持ってきました。そのフェミニズムとは、クィア理論家のジャック・ハルバースタムが指摘するような「ネガティブ」で「パッシヴ」な「シャドーフェミニズムズ」です。とはいえ、この系譜のフェミニズムと芸術実践の関連を学ぶ場が少ないとも感じてきました。

そこで、そういった場を作ってみようと思い立ったのが、この講座の始まりです。

2010年代以降は、フェミニズムの第四の波として、それまでのフェミニズムに対するイメージの更新や読み直しがさかに行われています。差別的な制度への関心が集まり、それが実際に是正されるといった変化を起こしています。芸術祭や展覧会の主題として目にすることも増えました。現在のフェミニズムは、人々に好まれ流行するという側面ももっています。このような波のなかにいながらも、この講座ではその波に乗るというよりは、むしろ波に溺れてみたり、波乱をもたらしたりするものとしてフェミニスト的な思考と実践を行っていきます。

授業構成は、理論編、実践編を交互に行い、理論編はオンライン開催、実践編は対面開催を予定しています。また、国内外のゲストを招いて、ワークショップやトークイベントも行い、創造性や知的な刺激が広がる場づくりを受講生とともに行っていきたいと考えています。

この講座でいう芸術実践は、発表形態等にこだわりはなく多様なあり方を想定しています。クィア・フェミニズム、ソーシャルプラクティスとしての芸術に関心を寄せるさまざまな方の受講をお待ちしています。

遠藤麻衣

授業内容の一例

■ 実践

関心や相談事についておしゃべりする。
受講者自身が企画したゲスト・レクチャー／ワークショップを開催する。
過去のレクチャー／ワークショップの例

- ・ワインを飲みながら、樹木と発酵のレクチャー
- ・脱ぐことをキーワードにストリップのワークショップ
- ・演技とケアの実践
- ・漫画作話・作画理論についての話とワークショップ
- ・推手をみんなでやってみる
- ・木版画 ZINE『刺紙（Prickly Paper）』を中心に中国での芸術実践紹介
- ・舞踏の系譜についての話と即興的な動きをするワークショップ
- ・「GWO BEAN Collective」の活動紹介と香港の農業事情
- ・「Good Night Limpet」のラジオ収録

■ 理論

クィア・フェミニズムの理論を芸術実践との関わりのなかで整理し、咀嚼する。
過去の読書会、レクチャーの例

- ・Dark Star『Quiet Rumours: An Anarcha-Feminist Reader』2012年
- ・Emma Goldman『Marriage』翻訳：名波ナミ、1897年
- ・河野真太郎『戦う姫、働く少女』2017年
- ・ゲイル・サラモン『身体を引き受ける：トランスジェンダーと物質性のレトリック』翻訳：藤高和輝、2019年
- ・玉城福子『沖縄とセクシュアリティの社会学：ポストコロニアル・フェミニズムから問い直す沖縄戦・米軍基地・観光』2022年
- ・橋本治『花咲く乙女たちのキンピラゴボウ 前篇』2015年

定員：10名
授業日：隔週火曜日 19:00～22:00
教程維持費：6,600円（通額）
開催教室：本校、オンライン
（本校とオンラインで交互に開催します。）

遠藤麻衣

1984年兵庫県生まれ。映像、写真、漫画、演劇などのメディアを横断し、おしゃべりや演技など自らの身体を通じたクィアフェミニスト的な芸術を実践している。近年のグループ展に「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」（国立西洋美術館、2024年）、「フェミニズムズ／FEMINISMS」（金沢21世紀美術館、2021年）など。演劇やパフォーマンス出演に第21回AAF戯曲賞受賞記念公演「鮭なら死んでるひよこたち」（愛知県芸術劇場ほか、2023）や「Stillive」（ゲーテ・インスティトゥート東京ほか、2019-）。2023年に「Scraps of Defending Reanimated Marilyn」（oarpress）刊行。2018年に丸山美佳と「Multiple Spirits（マルスピ）」を創刊。2021年東京藝術大学美術研究科博士後期課程美術専攻修了。2022年文化庁新進芸術家海外研修制度でニューヨーク滞在。

過去のゲスト

宇佐美なつ（踊り子）
玉城福子（社会学、ジェンダー研究）
竹中香子（俳優）
河野真太郎（英文学者）
永田康佑（アーティスト）
平間貴大（美術家）
丸山美佳（批評家・キュレーター）
渡辺泰子（アーティスト・アーティストコレクティブ「Sabbatical Company」メンバー）
櫻井郁也（舞踊家）
GWO BEAN Collective 果邊（半開放工作室）
陳逸飛（アーティスト・木版画 ZINE『刺紙（Prickly Paper）』メンバー）



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

立体・空間制作ゼミ ～時空を超えて 利部志穂

定員：8名
授業日：毎週火曜日 13:00 ～ 17:00
教程維持費：6,600 円（通額）
開催教室：本校

この講座では立体や、空間的な制作表現について学びます。そういった表現は美術の世界では「インスタレーション」と呼ばれています。ですが、建築と彫刻、インテリア、食べ物、自然、既製品との違いはどこにありますか？

海辺の開かれた風景と、街中の夜景ではどんな音が聞こえますか？
どんな匂いですか？その視界から隠れた場所には何がありますか？

モノを作る時、置く時、選ぶ時。素材、質感、場所の特性、大きさ、重さ。様々な要素が重なり合って出来上がります。また、鑑賞するときにはどうでしょうか？家具や彫刻、神社仏閣、公共施設、山や海、交通手段は車で歩きで自転車？季節は、時間は？同じモノや場所、空間にいたとしても、個々の体験や経験、時代、文化的背景や体格、関心事でも随分違って見えたり、感じられているのではないのでしょうか。

このクラスでは、作品制作、作品鑑賞体験、美術を考えることは勿論、それぞれの特性や関心がどのようなところにあり、どのように展開していくのか。どのような手段で制作や思考が進められるのかを、実践的に取り組んでいきます。作品制作は教科書的に進められるものではありません。その人自身の関心から生まれてきたものを大切に、未だ見ぬものを求めて一緒に探っていきましょう。

インスタレーション。と言ってもそれぞれの定義や考えによって広い範囲にわたります。時間や空間が関わるもの、人間の身体や事物を通して考え、制作していきます。立体物、絵、映像、言葉、音、パフォーマンスなど広義に渡り参加者それぞれの世界の在り方を探っていきます。制作、展示、作品鑑賞、フィールドワークなどを通して、様々なメディアや方法に実験的に取り組み、一年を通して一緒に考え、新しい時空を創作し、体験していきます。

利部志穂

美術家、彫刻家、サンライズサーファー
2004 年文化女子大学立体造形コース卒業
2007 年多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。

2017 年より 2 年間文化庁新進芸術家在外派遣にてイタリア、ミラノで活動。国内外の美術館やギャラリーなどで発表。

生活の中で不要となったものや、壊れて廃棄された拾得物、建築資材など様々な既製品を使用し組み替え彫刻作品を作る。サイトスペシフィックなインスタレーション、映像、写真、パフォーマンス、音、言葉、を用いて、モノと人との距離や時空に触覚的に関わっていく。日々の細やかな機微と大規模なスケール感とが同率、様々な言語感覚が物理的、詩的に混在、展開される作品世界。近年は世界の地形から見る神話、民話、口伝伝承、旅や食、生活活動を通して世界の共通言語を探索、制作、発表。

<http://www.kagabu.com/>



講座 WEB ページ
インタビューを掲載しています

劇のやめ方 ～演劇の総合窓口、振る舞いに迷っ たらこちらへ～

篠田千明

劇は始めるよりやめるほうが難しい。人前にでたくないというひとは、人前でなにかをやるのが嫌なのではなく、人前でなにかをやめるのが嫌なのでは、とすら思う。社会で起きている劇をやめるのはさらにとても難しい。と言うより、劇を認知することと社会を認知することはほとんど等しい。

つまり、ある劇を共有できることで生まれる社会の中に私たちは生きている。その社会全体を否定するわけではなくて、やめるべき劇があるのではないかと。難しいけど、劇のやめ方を考えることはいま必要とされているように思う。

『劇をやめる』そのテキスト自体が、即興的に無数の劇を生み出す。

私は、作家としては、常に即興性を生み出す劇が生き延びるべきだと考える。即興性はより多くの声を吸い込み、より多くの身体を同時に成立させるからだ。ありとあらゆるありえない組み合わせを可能にする、『劇をやめる』という演劇を作る。

この講座では、年間の最後に修了展をやります。上演でも展示でもパフォーマンス作品でもかまいません。個々人での発表か、全員での発表になるか、それは講座の進行で変わってきます。オンラインでの実験も含んでいます。

演劇には興味があるけど集団はつらい、とか、近くで見るのこわい、とか、そういう人も歓迎です。対象となる年齢やパフォーマンス経験は問いません。誰かの誕生日を祝った経験や、来週の予定を立てる経験があるなら、それは劇を立ち上げた経験がある、ということです。

個人の生活に密着した劇は力強さがあります。

どれだけ多くのタイムラインや場所を吸収できるか、その力強さをぜひ、この講座で私と共有させてください。

定員：10名

授業日：隔週火曜日 19:00～22:00

教程維持費：17,600円（通額）

※教程維持費は制作実費を含みます。

開催教室：本校

篠田千明

2004年に多摩美術大学の同級生と快快を立ち上げ、2012年に脱退するまで、中心メンバーとして主に演出、脚本、企画を手がける。

以後、バンコクを拠点としソロ活動を続ける。「四つの機劇」「非劇」と、劇の成り立ちそのものを問う作品や、チリの作家の戯曲を元にした人間を見る動物園「ZOO」、その場にきた人が歩くことで革命をシュミレーションする「道をわたる」などを製作している。

2018年 Bangkok Biennial で「超常現象館」を主催。2019年台北で ADAM artist lab、マニラ WSK フェスティバル Music Hacker's lab 参加。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

POP ILLUSTRATION 塾

スージー甘金＋小田島等

定員：10名
授業日：隔週火曜日 19:00～22:00
教程維持費：6,600円（通額）
開催教室：本校

“POP”というこの言葉は一体どこからやって来たのでしょうか？

「ポン！（POP！）」とコーラ瓶の栓が抜けるオノマトペ表現が爽やかなイメージと共に存在している事も忘れてはなりません、芸術史においては1950年代末のイギリスで行われた小さな勉強会で『POP ART』が論考／定義されることによりこの言葉に大きな意味が加わる事となります。そして次第にロック、イラストレーション、デザイン、ファッションなど、有形無形に幾多のカルチャーへとその根を広げて、『POP』は現代人が当たり前のように親しむ表現になりました。

私たち講師二名の業界経験を踏まえ、このユニークで大きな源泉「POP」に寄り添いながら、オリジナルの表現を探って行きたいと思えます。イラストレーションやデザインと言う職能的な枠組みに捉われること無く、ペインティング／コラージュ／版画などの様々な手法を使って、実践的に「POP ILLUSTRATION」を学べる講座となります。

授業内容の一例
・キャラクター創作
・絵と文字の関係を探る
・塗り＋コミック＝"塗りコミック"を描こう
・立体作品制作
・レコードジャケット制作
・イラストコンペへの応募
・引用の手法、コラージュを楽しもう
・"描かずに描く"トレースによる作品制作
・座学：『POP』ア라운드・カルチャー史 ほか

スージー甘金
1956年東京生まれ。元祖マンガイラストレーター、コミック画家。
多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。
1982年に雑誌「宝島」でデビュー後、多くの雑誌や広告、TVCMなど多くの媒体にイラストを提供。吹き出しやキャラクターなどのマンガ的要素や企業ロゴ、現代アートのモチーフを徹底的に引用した諧謔的作風は、後進の作家たちに多くの影響を与える。また、多摩美術大学非常勤講師、京都精華大学特任教授、その他多くの専門学校での講師を歴任する。
音楽業界のクライアントワークも多く、電気グルーヴのロゴやジャケットワークをはじめ、KUWATA BAND、山下達郎、村松邦男、LÄPPISCH、The Collectors、河内家菊水丸、平松愛里などのジャケットに数多くのイラストレーションを提供。主な著作に『POPO ART』（荒地出版社）、『少年ボンチ』（ジャパニックス）、『塗COMIX』（音楽出版社）などがある。
1980年代より個展も多数開催し、2022年 FAITH GALLERY で開催した2人展「艺术包」では、デュシャンの「泉」とウォーホルの「キャンベル缶」を足して商業で割った“極東 POP”オブジェ「艺术包缶」150缶を完売。
昨年、小田島等とともに「日本ポップアート協会」を結成。60年代ポップアートを再評価すると同時に、その精神を受け継いだ2020年代対応の新型ポップ・イラストレーター＆ポップ画家の発掘および育成を行っている。

小田島等
1972年東京生まれ。デザイナー、イラストレーター。ギャラリー VOID / FAITH 運営。
桑沢デザイン研究所卒業。15歳の時にポップアートと出会い明確な意志を持って絵を描きだす。高校時代に雑誌『イラストレーション』誌上コンペ「ザ・チョイス」にて印刷物デビュー。専門学校時代にスージー甘金のコガネ虫スタジオで修行し、“POP”の矜持に触れる。
1995年より音楽ジャケットや書籍装丁、広告物などのデザイン及びアートディレクションをスタート。音楽系では遠藤賢司、はっぴいえんど、ムーンライダーズなどのベテランから、サニーデイ・サービス、シャムキャッツ、くるりなど幅広く手がける。MVのディレクション・ワークも多数。近年では小説家・吉本ばななの装丁を手がける。
主な著作にデザイン作品集「ANONYMOUS POP」（P-vine books）、漫画作品「無 FOR SALE」（晶文社）、監修本「1980年代のポップ・イラストレーション」（アスペクト）がある。音楽ユニット BEST MUSIC としても活動し、2007年発表の『MUSIC FOR SUPERMARKET』は「早過ぎた VaperWave」で評され、近年では海外でも評価が及ぶ。



講座 WEB ページ
インタビューを掲載しています

Q & A

▼入学試験はありますか？

ありません。申込みをして学費を納入すれば、誰でも入れます。年齢や学歴による制限はありません。

▼高校生ですが入れますか？

入れます。不安があればご相談ください。

▼未経験者でも大丈夫ですか？

大丈夫です。どの講座でも、経験者と未経験者が混じって受講していますが、原則的に未経験者を前提として授業を進めていきます。ただ音楽系の一部教程では、経験者を前提としている講座がありますので、ご注意ください。その場合は、講座のページに明記してあります。

▼学校見学会や説明会はありますか？

あります。5月期は冬から春にかけて月3回程、10月期は9月に2回行っています。見学会・説明会以外にも、個別の学校見学や入学相談など随時受け付けていますので、ご希望の方は、気軽にお問い合わせください。

▼申込み時期はいつですか？

5月期（新年度）の募集は、前年の12月後半から、10月期（編入）の募集は、8月初旬頃から開始しています。申込み締切りは、5月期は3月末、10月期は9月末です。先着順ですので、お早めにお申込みください。

▼1クラスの平均人数を教えてください？

少ないところで2,3人から、多くても10人程度です。楽理基礎科のみ20～30人程で授業を行っています。

▼課題はどれくらい出ますか？

講座によって異なりますが、社会人の方も多く来ますので、そういった方々が時間的にこなせないような量の課題が出ることはありません。

▼授業見学はできますか？

できます。連絡なしでいきなり授業見学に来ていただいても構いませんが、学外で授業を行っている場合もあるので、念のため事前にお問い合わせください。オンライン教程の場合は10ページの「4）オンライン授業の見学について」を確認の上ご参加ください。

▼修了試験はありますか？

ありません。講座の修了について、試験や単位、修了制作などの制限が課されている講座はありません。

▼授業以外の時間で教室は使えますか？

使えます。午前中は授業がないので、いつでも使えます。午後と夜は、授業が入っていない時であれば使えます。使用目的としては、制作や受講生同士のミーティングなどが多いですが、たまに飲み会なども開かれています。使い方わからないことがあれば、事務局スタッフに聞いてください。

▼どんな人が来ていますか？年齢、職業、男女比を教えてください。

老若男女様々な人が来ています。高校卒業後に来る人、大学（美大生だけでなく一般大生も）や専門学校に通いながら来る人、大学や専門学校を卒業して来る人、フリーター、社会人、会社を辞めて来る人、主婦、留学生など年齢や職業は様々です。年齢層は、美術系の講座は20代～30代が多く、音楽系の講座は30代が多いです。男女比は、美術系の講座は、6:4、7:3ぐらいで女性が多く、音楽系の講座は、8:2ぐらいで男性が多いですが、少人数のため年によって大きく変わることがあります。

▼修了生はどんな活動をしていますか？

本当に様々な仕事、活動をしています。中には、著名なアーティスト、イラストレーター、デザイナー、編集者、漫画家（etc.）などになった人もいますが、表に名前が出ない人でも面白い活動をしている人、いい作品を作り続けている人は数多くいます。また、美学校を出てから何かになるのではなく、既にアーティストやデザイナー、イラストレーター、ミュージシャン、編集者（etc.）として活動している人たちも来ています。

▼資格が取れたり就職できたりしますか？

資格を取るための講座は開講していません。就職の斡旋もしていません。資格や職を求めてこの学校に来る人はいないようです。

▼子どものクラスはありますか？

あります。NPO法人 AESS 主催で「こどものアトリエ」という講座を小学生対象で開催しています。詳細は美学校のWEBをご覧ください。

美学校 本校3階 見取り図

美学校は、神田神保町の路地にある貸しビルの3階にあります。1970年にこの場所に越してきてから50年以上が経ちました。歴史を経て作り上げられてきた美学校の内部をご紹介します。



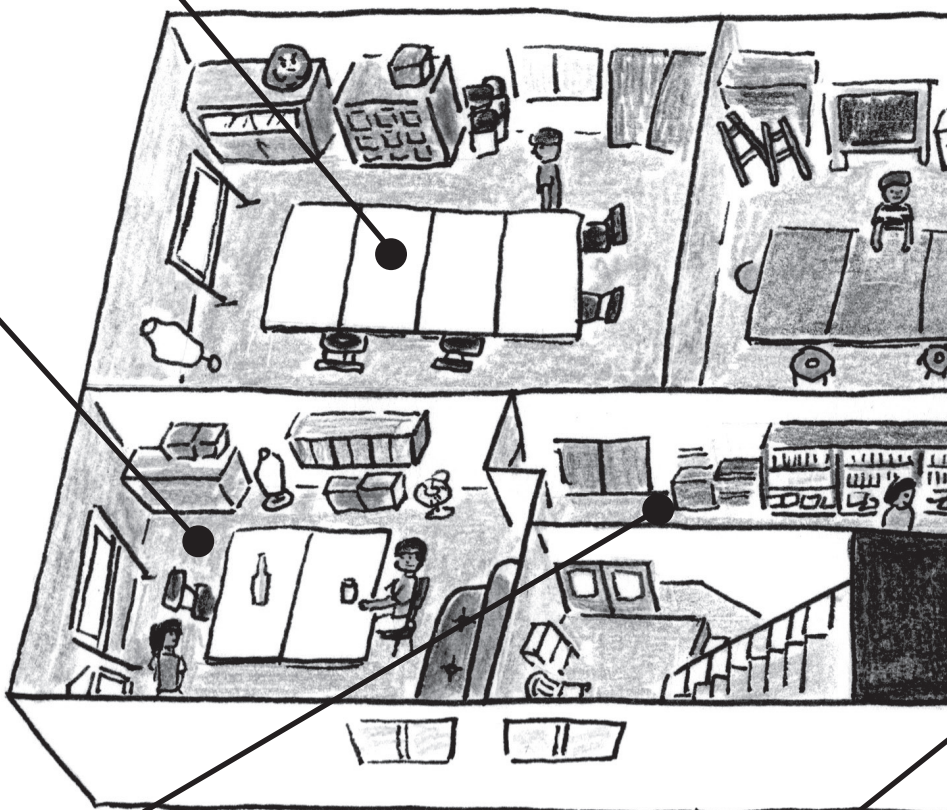
大教場

通常の授業で使用しています。普段は合板を5枚並べたテーブルを囲んで授業を行っています。土日は、テーブルを片付けて、イベントやワークショップを開催することもあります。



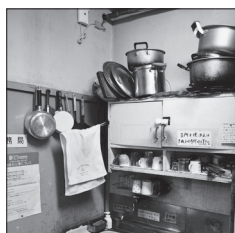
小教場

講義系の授業が行われていたり、当校代表の藤川が本を読んでいたります。相談事があれば藤川へ。入学相談から人生相談まで色々な話を聞いてくれます。授業時以外は開放しているので、気軽に入ってみてください。



廊下

展覧会やイベントのチラシやポスターがはられていたり、本棚には1970年代からの『ガロ』や『美術手帖』など貴重な本があったりします。チラシは自由に置いてください。



流し

歴史を経て、調理器具や食器が自然と揃いました。冬になるとみんなで鍋を作ったりする講座もあるようです。

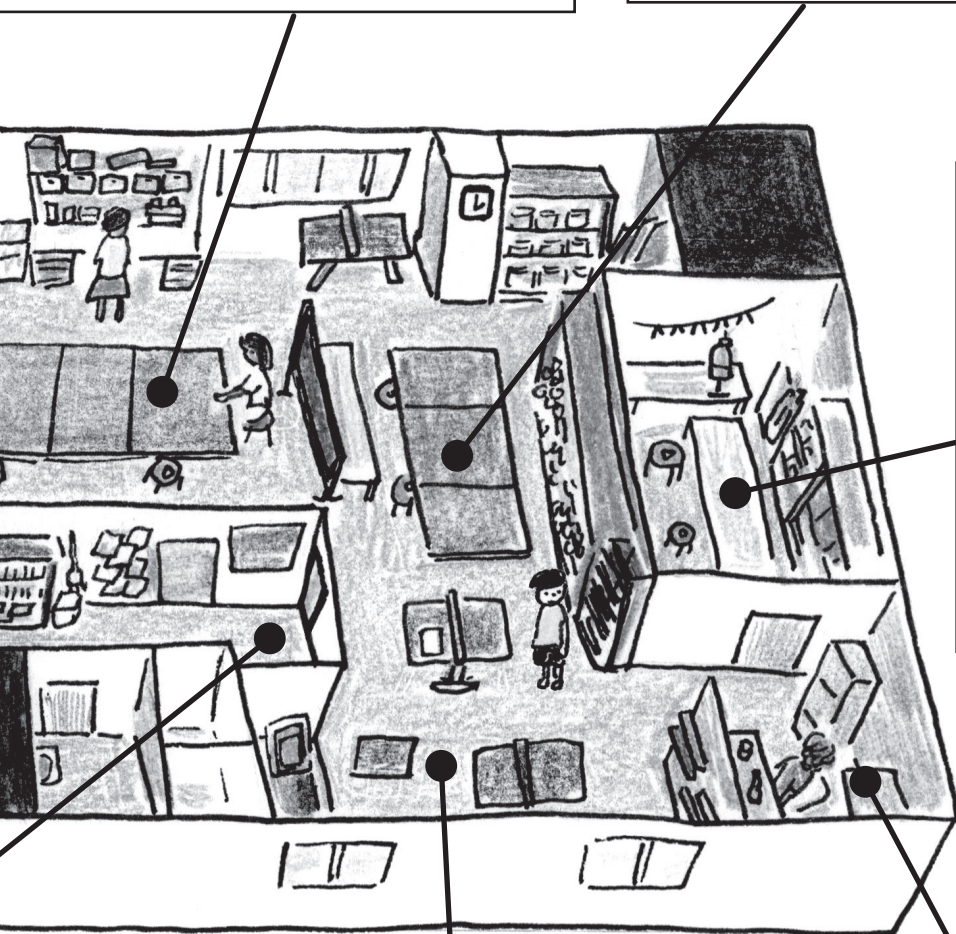
中教場

大教場とほぼ同じ広さの教場です。こちらでも通常の授業で使用しています。手作りの大きなライトテーブルや版画の製版用の露光機などがあります。



自習スペース

自習や課題の制作に使われているスペースです。長年美学校に通っている人もここで作業しているので、スペースの使用でわからないことがあれば聞いてください。



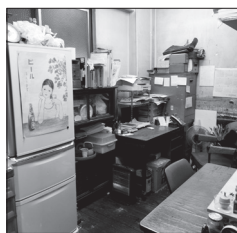
暗室

写真工場の授業で使用している暗室です。写真工場の受講生はいつでも使用できます。



水場

石版画で使う石版石の石研ぎやシルクスクリーンの製版、銅版の腐食、アクアチントなどもここでを行っています。



事務局

運営スタッフがいる部屋です。入学手続きやご質問はこちらどうぞ。

イラスト：是澤ゆうこ

美学校 本校 4 階

4 階音楽室ではオンラインで開講している音楽系講座の配信や、対面講座を開催しています。
小教場は、受講生なら制作や休憩などで自由に使うことができます。

4 階 音楽室



4 階 小教場



美学校 スタジオ

美学校 本校から徒歩 3,4 分ほどのところにあります。現役受講生と修了 1 年目は無料で、修了 2 年目以降は有料で利用することができます。用途は展覧会、イベント、公演、撮影、稽古など様々です。展覧会やイベントなどは事務局スタッフのサポートを得ることも可能です。



ハラスメントに関する基本方針

1969年の開校以来、受講生の国籍・年齢・性別・学歴不問を掲げてきた美学校は、いかなるハラスメントも容認しません。多様な価値観の人が集う場として、すべての受講生・講師・スタッフが、一人の人間として尊重されるよう、ハラスメント防止に努め、万が一かかる事態が生じた場合には、適正に対処します。

1. ハラスメントの定義

当校で起こりやすいハラスメントとして、以下の2つについて定義と事例を示します。下記以外にも様々なハラスメントが存在し、複数のハラスメントが絡み合って生じる場合もあります。

・セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反する性的な言動によって相手に不快感や不利益を与え、就労や就学環境を損なう行為のことです。セクシュアル・ハラスメントにあたるかどうかの判断は、その言動を受けた本人が不快に思うか否かによります。

スリーサイズなどの身体的特徴を話題にしたり、性的な経験について質問したりする。「男のくせに」「女のくせに」といった、性別で差別しようとする意識に基づいた発言をする。(ジェンダー・ハラスメントとも呼びます。) 性的指向や性自認をからかいの対象とする。ヌード写真などをわざと見せたりする。個人的な指導と引き換えに性的な関係を要求したり、執拗に食事や酒席に誘ったりする。要求を拒否されたために、受講生を展示に参加させないなどの不利益を与える。など。

・アカデミック・ハラスメント

講師等が、意識的か無意識的かを問わず、自身の優位な立場や権限を不当に利用し、受講生の受講意欲や受講環境を著しく低下させる言動や指導のことです。

講義上必要のない授業の手伝いや私的な雑用を押し付け、断られたら叱責する。特定の受講生を他の受講生と差別して、必要以上に厳しい課題を課す。指導の範囲を超えて人格を否定する言動や脅迫的な言動を行う。求められた指導を正当な理由なく拒否する。など

2. ハラスメントを起こさないために

何を不快に思うかは個人によって異なります。ハラスメントに当たるか判断がつかないときは、自分の家族や友人に同様の言動が向けられた場合を想像してください。また、講師と受講生の間に、NOと言えない力関係が図らずも存在していないか意識することを日頃から心がけてください。

自分の家族や友人に同じ事が言えるか、できるか。自分の家族や友人が同じ事を言われたら、されたらどうか。家族や友人に見られていても同じことが言えるか、できるか。

3. 被害に遭ったら

不快だと感じる言動を受けたら、我慢せずにそのことを相手に伝えてください。相手が不快感をもたらしていると気づいていない場合もあるので、不快であることを口頭または文書で伝えることで、解決可能な場合もあります。その場で伝えにくい場合や、抗議をしても言動が改まらない場合は、速やかに事務局に相談してください。必要に応じて外部機関と連携しながら問題解決に努めます。その場で拒否できなかった自分が悪いのではないかと自分を責めたり、他の受講生に迷惑がかかるのではないかとといった心配をする必要はありません。相談や情報提供にあたり、相談者や情報提供者のプライバシーは保護されます。また、相談や情報提供をしたことによる、不利益な取り扱いはい行いません。なお、ハラスメント行為を受けたら、いつ、どこで、どのようなことを言われたか・されたかといった記録をとっておくと、問題解決時に役立ちます。

【相談窓口】 美学校 本校・事務局

T E L : 03-3262-2529 (平日 13:00 ~ 18:00) メール: bigakko@tokyo.email.ne.jp

4. ハラスメント防止のための啓発

あらゆるハラスメントの防止のため、本指針を講師・受講生に配布するほか、希望者には映像資料の貸出や講習の案内を行うなどして周知、啓発に努めます。

プライバシーポリシー

有限会社美学校（以下「当社」といいます。）は、当社の提供するサービスにおける、お客様の個人情報の取扱いについて、以下のとおりプライバシーポリシーを定め、その適正な取扱いに努めます。

1. 個人情報の取得

当社は、お客様に当社のサービスをご利用いただく場合や、サービスに関する情報を提供するために、お客様の氏名、性別、住所、電話番号、メールアドレス等の個人情報をご提供いただく場合がございます。

2. 個人情報の利用目的

当社は、お客様からご提供いただいた個人情報を以下の目的のために利用します。

- ・入校受付、本人確認および学籍作成のため
- ・学費のクレジットカード決済のため
- ・オープン講座、公開授業、ワークショップ、その他各種イベントの予約受付等の対応のため
- ・学校連絡および授業連絡のため
- ・資料、募集要項の発送のため
- ・問い合わせへの回答のため
- ・見学、受講相談の対応のため
- ・Eメールマガジンの配信のため
- ・個人を特定しない範囲での統計的な利用のため
- ・上記の目的に付随する利用目的のため

3. 個人情報の第三者への提供

ご提供いただいた個人情報は、個人情報保護法その他の法令に基づき開示が認められる場合を除くほか、あらかじめお客様の同意を得ないで、第三者に提供しません。但し、次に掲げる場合はこの限りではありません。

- 3-1. 当社が利用目的の達成に必要な範囲内において個人情報の取扱いの全部または一部を委託する場合
- 3-2. 合併その他の事由による事業の承継に伴って個人情報が提供される場合
- 3-3. 国の機関もしくは地方公共団体またはその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、お客様の同意を得ることによって当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがある場合
- 3-4. その他、個人情報保護法その他の法令で認められる場合

4. 個人情報の開示

当社は、お客様から、個人情報保護法の定めに基づき個人情報の開示を求められたときは、お客様で本人からのご請求であることを確認の上で、お客様に対し、遅滞なく開示を行います（当該個人情報が存在しないときにはその旨を通知いたします。）。但し、個人情報保護法その他の法令により、当社が開示の義務を負わない場合は、この限りではありません。

5. 個人情報の訂正および利用停止等

5-1. 当社は、お客様から、（１）個人情報が真実でないという理由によって個人情報保護法の定めに基づきその内容の訂正を求められた場合、及び（２）あらかじめ公表された利用目的の範囲を超えて取り扱われているという理由または偽りその他不正の手段により収集されたものであるという理由により、個人情報保護法の定めに基づきその利用の停止を求められた場合には、お客様で本人からのご請求であることを確認の上で遅滞なく必要な調査を行い、その結果に基づき、個人情報の内容の訂正または利用停止を行い、その旨をお客様に通知します。なお、合理的な理由に基づいて訂正または利用停止を行わない旨の決定をしたときは、お客様に対しその旨を通知いたします。

5-2. 当社は、お客様から、お客様の個人情報について消去を求められた場合、当社が当該請求に応じる必要があると判断した場合は、お客様で本人からのご請求であることを確認の上で、個人情報の消去を行い、その旨をお客様に通知します。その場合、お客様が抹消された個人情報に基づいて利用されていた当社の提供するサービスは停止され、そのサービスのお客様の利用資格は失われます。

5-3. 個人情報保護法その他の法令により、当社が訂正等または利用停止等の義務を負わない場合は、前２項の規定は適用されません。

6. お問い合わせ

当社の個人情報の取扱いに関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

有限会社 美学校
住 所：〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第 2 富士ビル 3F
T E L：03-3262-2529（平日 13:00 ～ 18:00）
メール：bigakko@tokyo.email.ne.jp

Handwriting practice lines consisting of multiple horizontal dotted lines.

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.

美学校 本校／事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第2富士ビル 3F

TEL. 03-3262-2529（受付時間：平日 13:00 ～ 18:00）

E-mail. bigakko@tokyo.email.ne.jp

美学校 スタジオ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-6 宮川ビル 1F（袋小路奥）

※郵便ポストはありません。郵便物は本校にお送りください。

美学校 岡山校

〒700-0011 岡山県岡山市北区学南町 2-7-4

LIVE HOUSE PEPPER LAND 内

<https://bigakko.jp>

